

防災士誕生10年

阪神・淡路大震災の教訓から防災士は誕生しました。

99年12月にNPO法人防災情報機構（会長 石原信雄氏・元内閣官房副長官）が「防災士制度」の検討に着手し、02年3月に現在の防災士資格試験を司るNPO法人「日本防災士機構」を設立されました。

03年4月には防災情報機構から「防災士制度事業」を日本防災士機構へ全面移管しています。

日本防災士機構による第1回防災士資格試験（会場・東京都）が実施されたのは、03年9月でした。同年10月には第一次防災士216名が資格認証され誕生しています。

現在、全国の防災士認証者数は、79,163名（14年6月末）です。

特筆すべきは、愛知県は03年6月に自治体として初めて日本防災士機構の「防災士養成事業」に参加しています。

日本防災士会が発足したのは、04年10月であり、代表幹事に小宮多喜次（元東京消防庁消防総監）氏と浦野修（元全国郵便局長会会長）氏の二氏が就任しました。

現在の特定非営利活動法人「日本防災士会」の理事長は浦野修氏です。

東京に日本防災士会の本部が立ち上がったことにより、地方組織結成への声の高まりの中、05年4月に関係者のご努力により日本防災士会愛知県支部が結成されました。

愛知県には認証防災士が4,855人（14年6月末）いますが、支部所属者は280人です。

本年3月に内閣府が示した「地区防災計画ガイドライン概要」の中に「東日本大震災において、自助、共助及び公助がうまくかみあわないと大規模広域災害後の災害対策がうまく働かないことが強く認識されました。」また、「避難所運営等では市町村の行政機能が麻痺して、地域住民自身による自助、地域コミュニティにおける共助が重要な役割を果たしました。」と述べ、地区の特性に応じた防災計画と活動実践を求めています。

地域に密着した防災士の出番ではないでしょうか。

私の感想ですが、日頃、町内会単位での行事があまり行われない町内に、災害時での共助は育まれないように思います。

防災士として、身近な所から「自分の命は自分で守る」と「町内は町内で守る」を徹底して、災害時に備えた共助意識の醸成や強化に努めたいものです。



日本防災士会愛知県支部
会長代行 瀧田 堯

平成26年度事業計画

1、防災の啓発の仲間をつくろう

- 東海地方連絡協議会の連携の強化 ●

2、フロックの組織を充実して行こう

3、地域での防災啓発活動への参加

- 地域でのミニ集会による啓発の活動への参加 ●

4、会員のスキルの向上と交流を進めて 行こう

- 日頃からの災害に備え、知識・技術の実践 ●
- 外部研修への積極的参加によるスキルのアップ ●
- 東海4県との交流の推進 ●

5、広報活動の充実しよう

- 各地域での活動情報を収集し会報で紹介する ●

平成 26 年度愛知県支部役員

平成 26 年6月4日

役 職	氏 名	副 委員長	備 考
理 事・代 表	保坂 松男		
理事・代表代行	濱田 堯 筆 頭(代表補佐) 手塚 哲郎 担当:組織・広報委員会 倉知 彰治 担当:企画・研修委員会		
理 事・副代表 企画委員長	西川 賢次(兼)	河合 美恵子 ・木藤 俊郎 ・庄野 俊哉	・事業計画の推進。 ・外部の意見の集約による運営
理 事・副代表 組織委員長	櫻井 衛	鳥山 一三 雪田 克彦 加藤 和久 槌岡 宏行	・地域へのサポート及び地域の 情報の収集
理 事・副代表 研修委員長	森 千代子	羽田 道信 布目 活男 原 美佐子 石垣 辰夫	・地域で活動するリーダーのス キルのアップ ・地域での啓発活動のサポート
理 事・副代表 広報委員長	原田 友子	阿部 健二、 西川 賢次(兼)	・地域の幅広い情報の収集と 開示
理 事・事務局 長	加藤 芳隆	阿部 健二(兼)	
理 事・会 計	布目 活男(兼)		
会計 監査	伊藤 知恵、 佐藤 忠悟		
事務局[総括]	鈴木 孝則		

太字:新任及び兼務



平成 26 年度 愛知県支部研修計画

今年度の活動方針に則って、下記一覧表の通り愛知県支部の活動計画がまとまりました。
一部については参加人数に制限のある企画もありますが、その他のスキルアップ講習・気象台
専門官の講座・外部の特別講師を招いた講義や講習はぜひ多くの方にご参加いただき、共に学
んで防災士としての資質の向上に努めていきたいと願っています。

ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

研修委員会 森千代子

月 日	時 間	内 容	会場・その他	担当
8 月 30 日(土)	13:00～ 13:30 13:40～ 16:30	スキルアップ研修への取り組み スキルアップ研修 「避難所運営訓練」	東特会館	森 西川
9 月 9 日(火)	9:00～ 14:00	防災減災啓発事業 学校祭での展示・実習活動	県立岩倉総合高校 3 階学習室	森
9 月 13 日(土)	13:00～ 15:30	名古屋大学減災館の見学研修 現地集合 13:00	名大減災館	森
9 月 21 日(日)	14:30～ 17:00	東海地区防災危機管理サミット in 静岡 主催:日本青年会議所東海地区協議会	静岡県商工会議所 静岡事務所 5 階	保坂
10 月 6 日(月)	13:15～ 15:00	洋上研修 “ぼーとおぶなごや 2” に乗船 「名古屋港の防災対策」現地集合 13:15	名古屋港ガーデン埠 頭 ポートビル 1 階	櫻井 森
10 月 13 日 (月・祝) ～14 日(火)		「災害被災地視察の一泊研修」 視察先: 栄村大震災及び 中越沖・中越地震の被災地	名古屋駅発着 貸切バス利用 旅費 3 万円位	森
11 月 2 日(日)	9:00～ 16:00	特別研修 「DIG & イメージ T E N」 静岡県防災士会 清水 俊雄氏	東特会館 参加費 500 円	保坂
11 月 8 日(土)	13:00～ 14:30 14:40～ 16:00	第 1 回 名古屋地方気象台講座 「気象と災害」向井 利明氏 スキルアップ研修 「地域とともに歩む防災啓発」	東特会館 参加費 300 円	 濱田
11 月 22 日(土)	10:00～ 12:00	学生に対する防災講座・展示	享栄高校	羽田
11 月 29 日(土)	13:00～ 14:30 14:40～ 16:00	第 2 回 名古屋地方気象台講座 「防災気象情報の活用」向井 利明氏 スキルアップ研修 「簡単・迅速・確実なロープの結び方」	東特会館 参加費 300 円	 羽田
12 月 4 日(木)	13:00～ 14:30 14:40～ 16:00	第 3 回 名古屋地方気象台講座 「地震と津波」能勢 努氏 スキルアップ研修 「災害ボランティアセンターの運営」	東特会館 参加費 300 円	 西川
27 年 2 月 予定	9:00～ 16:00	特別研修 「避難所運営の方法」HUG 静岡県防災士会 清水 俊雄氏	東特会館 参加費 500 円	保坂

さあ、楽しくスキルアップ！！

会員の皆さま、あなたの出番ですよ

仲間とともに集い、ともに学びましょう

まずは、参加申し込みを……

スキルアップ研修への取り組み

と き 平成26年8月30日(土) 午後1時～1時30分

ところ 東特会館

担 当 研修委員長 森千代子

「避難所運営訓練」 同日 午後1時40分～4時30分

講 師 企画委員長 西川賢次

内 容 避難所の運営方法について考えます

参加費 無料

見学研修会 名古屋大学 減災館で学びましょう

と き 平成26年9月13日(土) 午後1時～3時半まで

ところ 名古屋大学減災館

名古屋市不老町 ☎052-789-3468

集 合 減災館玄関まえ 午後1時

地下鉄名城線 名古屋大学駅下車
2番出口から徒歩3分

参加費 無料

内 容 最先端の研究成果を盛り込んだ施設を
ゆったりと見学し防災・減災について
学びます。

現地での集合・解散とします



洋上からウォッチング「名古屋港の防災対策」

と き 平成26年10月6日(月) 午後1時15分～3時
集 合 名古屋港ガーデン埠頭 ポートビル 1階ロビー
(地下鉄名古屋港駅下車、徒歩5分)
午後1時15分集合 厳守
参加費 無料

募集人数 50名

内 容 港務艇“ぽーとおぶなごや2”に乗船し、防潮堤を含む名古屋港の防災対策などを洋上から見学して学びます。なかなか得難い機会です。こぞってご参加ください。



〈ポートビル〉

一泊研修

栄村・中越沖・中越地震の被災地を訪ねて学ぶ

と き 平成26年10月13日(月・祝)～14日(火) 1泊2日
行 先 栄村大震災(H23・3・12)の長野県栄村
中越沖地震(H19・7・16)の川口町・山古志村(ともに現長岡市)
中越地震(H16・10・23)の長岡市・柏崎市 など

宿泊先 越後湯沢温泉 双葉

参加費 一人3万円くらい

内 容 名古屋駅発着で大型観光バスを利用
長野・新潟の上記地震のその後を視察研修し、今後の活動に生かす手立てを探ります。
会員相互の親睦を図る研修会とするため、万障お繰り合わせの上誘い合わせて、一人でも多くの方が参加してくださるよう希望しています。内容確定後、参加希望者に直接ご連絡させていただきます。

特別研修「DIG&イメージTEN」

と き 平成26年11月2日(日) 午前9時～午後4時
ところ 東特会館
講 師 清水俊雄氏 (日本防災士会静岡県支部 副支部長)
参加費 500円 (資料代など)
内 容 DIG(災害図上訓練)とイメージTEN(自主防災組織災害対応訓練)の
組み合わせで、災害イメージ力を強化して基本の基から学びます。
この機会に正統なDIGを身につけましょう。

第1回名古屋地方気象台講座「気象と災害」

と き 平成26年11月8日(土) 午後1時から2時30分
ところ 東特会館
講 師 向井利明氏 (防災業務課・調査官)
参加費 300円 (資料代など)

スキルアップ研修会 「地域とともに歩む防災啓発」

同日 時 間 午後2時40分から4時
担 当 代表代行 濱田 堯



第2回名古屋地方気象台講座「防災気象情報の活用」

と き 平成26年11月29日(土) 午後1時から2時30分
ところ 東特会館
講 師 向井利明氏 (防災業務課・調査官)
参加費 300円 (資料代など)

スキルアップ研修会 「簡単・迅速・確実なロープの結び方」

同日 時 間 午後2時40分から4時
担 当 研修副委員長 羽田道信 (藤田保健衛生大学 教授)

第3回名古屋地方気象台講座 「地震と津波」

と き 平成26年12月4日(木) 午後1時から2時30分

ところ 東特会館

講 師 能勢 努氏 (東海地震防災官)

参加費 300円(資料代など)

スキルアップ研修会 「災害ボランティアセンターの運営」

同日 時 間 午後2時40分から4時

担 当 企画委員長 西川賢次

参加申込みについてのお願い

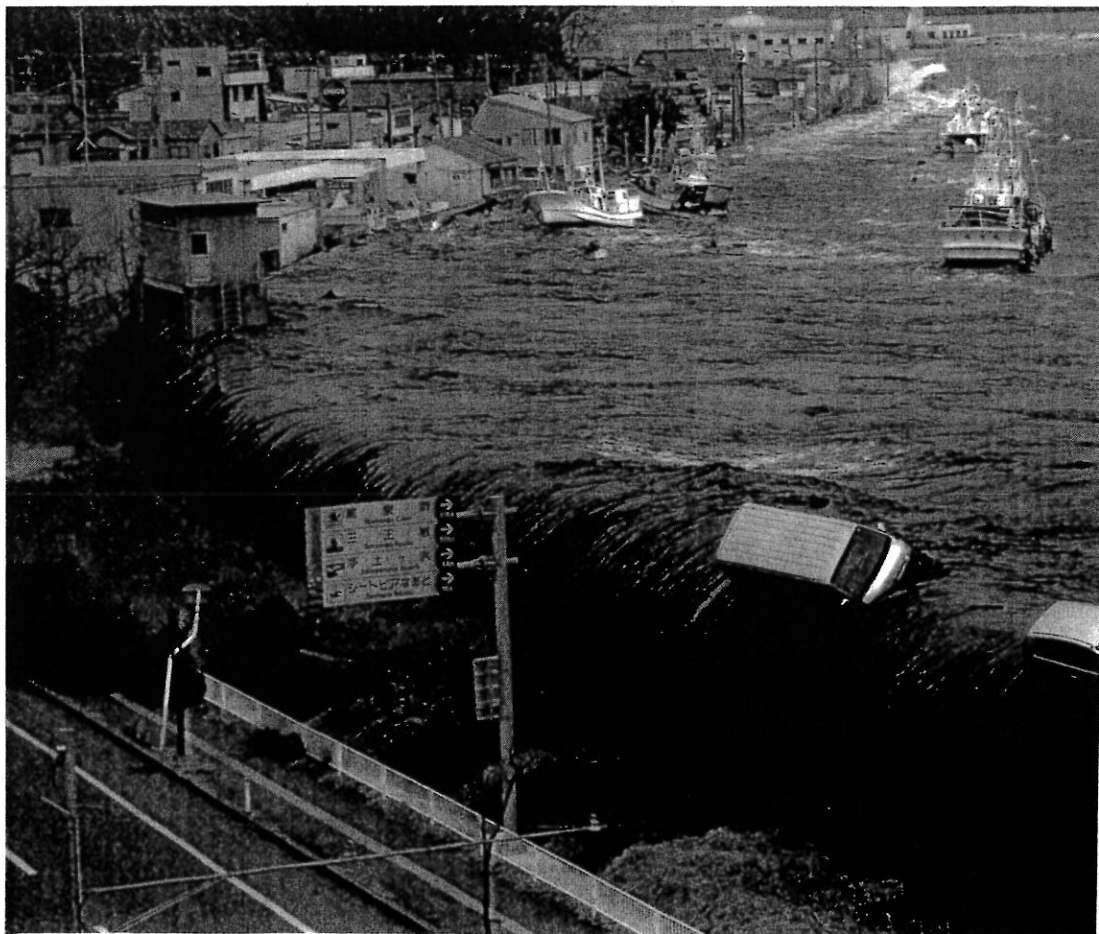
今回は12月までの予定をご案内いたしました。

一泊研修旅行や洋上研修を企画しているため、急で申し訳ありませんが同封のハガキにて8月25日(月)までに参加希望をご連絡くださるようお願いいたします。

ともに学ぶ機会を大切にしたいため、東特会館で開催の研修については欠席と連絡された方でも時間の都合のついた場合は、当日参加も受け付けたいと思います。

諦めずに是非ご参加ください。

岩手日報社



…● 備えがあれば憂いなし ●…

副 題 : 台風と集中豪雨(大雨)に備えよう。

今年も台風シーズンがやってきました。

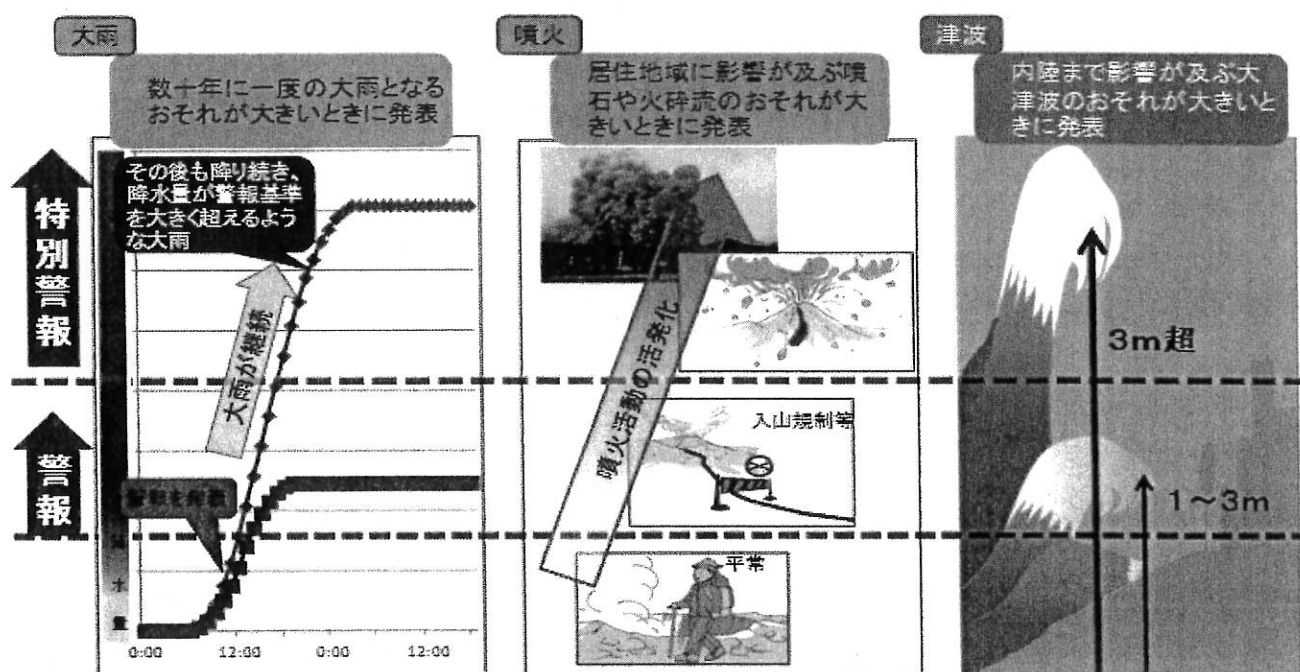
平成 25 年 8 月 30 日(金)に「特別警報」の運用が開始されて以来、かつて予想されない過去最強クラスという最大級の台風 8 号の到来に、7 月 7 日気象庁が初めての「特別警報」を出しております。

経験したことのない異常な現象が起きそうな状況であり、直ちに命を守る行動をとるよう呼びかけております。

今まで気象庁では大雨、地震、津波、高潮などによる重大な災害の起こる時に警報を発表しておりました。

これに加え、この発表の基準をはるかに超える豪雨、大津波等が予想され重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に新たに「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼び掛けるものであります。特に局地的な猛烈な雨による土砂災害の危険性と水かさの急激に増すための警戒が求められます。

「特別警報」イメージ



この地域では昭和 34 年 9 月 26 日の伊勢湾台風と平成 23 年の台風 12 号の豪雨により甚大な被害をもたらし、100名余の死者・行方不明を出した紀伊半島豪雨等がこの「特別警報」に該当します。

毎年、大きく気象環境も変ってきており特別警報が発表されないからと言って安心は禁物です。過去の特別警報の指標を満たす主な台風事例は伊勢湾台風を入れて 5 件発生しており、すべてが 9 月に発生をしています。

災害の発生の少ない地域においても災害の可能性が高まっており、決して油断をしてはいけません。特に斜面の土砂の崩壊、低地における水害等に注意が必要であります。

昨年10月16日未明、伊豆大島(人口:8000 余名)で台風 26 号の集中豪雨による土砂災害が発生し死者、行方不明 41 名の犠牲者がでました。

避難勧告の遅れ等が問題になりましたが今まで平和の中の生活であり誰もが予想もしない中での発生であります。地震(震度 6 弱以上の緊急地震速報が特別警報になります)の予知は出来ませんが、台風・大雨は気象予報等により事前に知ることが出来ます。

台風は事前に備えができます、台風が接近してからでは間に合いません。

●**台風(大雨)災害に備えて行っておくこと**

●**台風が近づいたら絶対にしてはいけない**



① 道路の増水に備え排水路、側溝を掃除

② 災害に備え日頃家族で話し合っておく

③ 非常持ち出し品を準備する。

必要、最小限のものを準備する、

あれもこれもと欲張らないこと。

④ 断水に備えて飲料水と浴槽に水を張るなどして、トイレなど生活用水の確保。

①用水路の見回りはしてはいけない。

増水した用水路は道路との境目がわからなくなり足を取られる。

②海には絶対に近寄らない

③屋外での作業は絶対してはいけない

昭和 36 年の伊勢湾台風の被害から半世紀(53 年)が過ぎます。

当時の被害を伝えるものが目につかなく、数年前までは被害の記憶を忘れないために各所に浸水被害の表示がありましたが、今は殆ど見かけなくなりました。

私たちの心から忘れ去られようとしているのではないのでしょうか。伝えて行かなければいけません。名古屋市港区役所の入口に、今も来訪者の目につくところに伊勢湾台風の浸水表示がされております。忘れてはいけないのです。自然災害は容赦なく襲ってきます。

この度の台風 8 号は特別警報としては予想を下回った台風でありました。また台風がやってきます。一人の被害者も出さないために日頃の備えを見直しましょう。